

## 平成 22 年度学校関係者評価報告書

社団法人静岡県専修学校各種学校振興会による「静岡県版ガイドライン」に沿って自己点検・評価を実施した報告書を元に、学校関係者評価を下記の通り実施いたしましたのでご報告申し上げます。

なお、下記の一部の項目については、改善のための方策をすでに実施しております。

### 平成 22 年度学校関係者評価委員

外部関係者	神田 均 氏	特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会	理事長
	長谷川久代 氏	財団法人静岡県看護協会	元常務理事
卒業生	大寺 潤 氏	医療法人社団綾和会	介護老人保健施設焼津ケアセンター 介護職員
	落合 剛 氏	社会福祉法人葵寮	救護施設葵寮 生活指導員
本学教員	橋野 幸男	総務部事務局長、自己点検・学校評価推進室	担当
	長橋 好美	教務課長、自己点検・学校評価推進室	担当

1. 教育理念・目標	
【現状の問題点】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学オフィシャルサイト（ウェブ）、ホームルーム・教員室に「建学の精神」「校訓」を掲示したが、内容の理解については依然として不十分である。</li> <li>・AO 入学選考対象者について「建学の精神」「校訓」「教育の理念」の理解をエントリーの条件としたが、その他選考方法受験生には理解の機会がなかった。</li> </ul>
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在校生については、卒業年次の前期に実施される就職面接指導をひとつの機会と捉え、「建学の精神」「校訓」「教育の理念」の理解を深める。</li> <li>・入学当初実施している校歌指導を継続して行う。</li> <li>・入学準備として入学予定者全員に理解の機会を与える。</li> </ul>
【関係者評価】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「建学の精神」「校訓」「教育の理念」について、現代風に分かりやすい表現を使って、学生に十分理解を深めさせる努力をする必要がある。</li> </ul>
2. 教育活動	
【現状の問題点】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生に対するシラバスの説明が不十分である。</li> <li>・非常勤講師の自己点検が実施されていない。</li> <li>・卒業要件であるビジネス能力検定 3 級の未取得者が増加した。</li> </ul>
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教科第 1 回目の講義開始前、学生にシラバスを配布し、意義と内容について説明する。</li> <li>・非常勤講師においても自己点検評価の意義を理解してもらい、全教科についてシラバスの説明と自己点検評価を行う。</li> <li>・資格検定の目標合格率を設定し、年度末に反省と次年度の対策を練る。</li> <li>・社会人の基本であるビジネス能力検定については全教員が指導にあたる。</li> </ul>
【関係者評価】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生に対してのシラバスの内容説明は、より分かりやすい表現をすることにより、学生に理解を深める必要がある。</li> </ul>

3. 学生受入れ	
【現状の問題点】	・「総合福祉学科」「子ども心理学科」「医療情報秘書科」においては昨年度より志願者が増加したが、「介護福祉学科」においては大幅に減少した。
【改善のための方策】	・「介護福祉学科」「総合福祉学科」は、介護労働条件等の不安材料もあり、高校側から敬遠された。介護福祉士養成校の国家試験延期にかかる法案が成立次第、介護福祉の社会的意義を唱える広報活動を展開する。 ・オープンキャンパスの見直しを行い、他校との差異化を図る。
【関係者評価】	・卒業と同時に「介護福祉士」の資格が得られる利点を、より幅広く PR することを徹底するよう努力する。
4. 教職員組織	
【現状の問題点】	・介護福祉士養成施設専任教員としての資格でもある介護教員講習会受講が修了していない教員がいる。 ・教員ステップアップのため、積極的な研修参加が望まれる。
【改善のための方策】	・介護教員講習会、社会福祉援助技術現場実習演習担当教員講習会未受講者については、全員が平成 23 年度受講する。 ・全教員が、必ずいずれかの研修を受講し、受講後の勉強会（教員および学生に対する）を実施する。
【関係者評価】	・質実ともに適切な教員配置を推進し、学生の質向上を目指してほしい。
5. 施設・設備等	
【現状の問題点】	・耐用年数の過ぎた電気器具備品が多数ある。 ・施設設備の使用に関し乱雑な取り扱いをする学生が散見される。 ・計画的な図書購入が為されていない。 ・教室内に不用品（実質は使用されていない電子機器備品等）が置かれている。 ・教員室（個人情報管理含）、図書室の整理整頓が不十分である。
【改善のための方策】	・電気器具備品については、日頃からの管理に留意し十分なメンテナンスを行う ・学生の施設設備について「学生の手引き」第 8 章に従った指導を徹底する。 ・図書担当教員は、図書購入希望を教員および学生から募り、計画的に図書購入の申請を行う。 ・不用品については、処分の手配を行う。 ・教職員は、教員室の整理整頓を心がけ、個人情報等の管理を厳重に行う。
【関係者評価】	・校内の各箇所環境整備について、より一層検討してほしい。
6. 学生生活支援	
【現状の問題点】	・近年、こころに問題を抱えた学生が増加しており、それを踏まえ、計画的に教員をキャリアサポートマインド養成講座およびカウンセリング研修等を受講させているが、現段階においては学生指導につながっていない。 ・学費の支払いが困難な学生が増加し、進級時に問題となることもあった。
【改善のための方策】	・今後は全教員がキャリアサポートマインド養成講座およびカウンセリング研修等を受講し、適切な学生指導が行える体制を整える。また、問題のある学生に対する

	<p>指導体制を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学費の支払いが困難な学生については、奨学金だけでなく、無理のない学費納入計画のアドバイスまで行う。</li> </ul>
【関係者評価】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員に対し、臨床心理士や精神科医師並びに精神保健福祉士等による専門的研修講座等を実施するなど、教員の学生指導をサポートできたらと思う。</li> <li>・福祉介護医療現場は、「命を支える」現場である。そのことを踏まえると、学生の質も重要である。一定レベル以下（成績やこころに問題を抱えている等）の者の入学について、再考の必要があるのでは。</li> <li>・学費支払い困難者への対応として、校内外の奨学金制度等の活用についての指導を今後も推し進めてもらいたい。</li> </ul>
7. 管理・運営	
【現状の問題点】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月11日の「東日本大震災」に伴う公共交通網マヒにより、帰宅困難となった学生があった。</li> <li>・セクシャルハラスメント等については、これまで問題は起きていないが、未だ専門的な知識も不足しており、対応策等が整備されていない。</li> <li>・未成年者の喫煙はもちろんであるが、福祉医療を目指す学校として学内喫煙に関しては検討を要する。</li> </ul>
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年2月の「チリ地震津波」や今回の「東日本大震災」の経験を蓄積して、緊急時の対処方法をレベルアップし、静岡市在住教職員による帰宅困難者に対する保護組織を結成する。</li> <li>・メールを利用した緊急時情報発信システムを構築、運用する。</li> <li>・セクシャルハラスメントや学校安全計画（防犯対策・不審者対策）等の研修に積極的に参加し教職員の意識を高める。</li> </ul>
【関係者評価】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災後の社会情勢の変化に、学校として適切に対応するとともに、学生への指導もより一層力をいれていただきたい。</li> </ul>

以 上